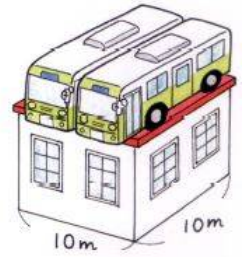


1㎡の広さに1m積もった雪の重さは約300～350kgです。そのため、家の屋根全体に1m積もった雪の重さは2台分のバスの重さ(約30t=30000kg)になります。

そのため、雪国の信号機は、つもった雪の重みで故障しないようにたてにならべてあります。この信号機の赤は、上・中・下のどこについていますか？

答え…赤は危険を表す色のため、前に車がいても見えるように(1)につけてある。

また、よこならびの信号機の赤は、車の中から見ると、左・中・右のどこについていますか？ 答え…(2)



雪の重さ

雪にうもれる十日町

日本で最も長い川は(3…?川。367km)、2番目が(4…?川。322km)で、3番目は石狩川(北海道)です。この最も長い川に沿ったところにある十日町は、雪が多く降るところとして知られています。消えずに残っている雪を(5…漢字で)

といいます。十日町ではこの期間が平均して約(6)ヶ月もあるのです。

また、最も深く積もったときは4m以上になる

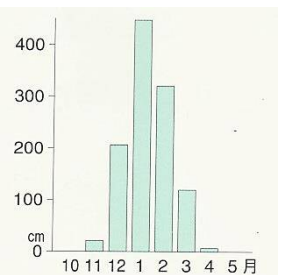
こともあり、毎日雪かきをしないと玄関から出入りすることができません。

そのため、玄関を二階にもつくったり、雪を落としやすいように屋根の傾きを急にしたり、重みにたえられるように太い柱を使ったりしています。



夏の様子

冬の様子



月ごとの積雪量(十日町市) 一日に降った雪の深さを、月ごとに合計したものです。



雪から家を守るくふう

ここでは、屋根の(7…雪ほりともいう。上写真)が毎日の欠かせない作業です。重労働で危険もともないます。そのため、たくさんの湯をわかす(8…機械の名)であたためた水を屋根にまいたり、ヒーターで屋根の雪をとかしたりすることもあります。

また、雪の重みをへらすための(9…右写真)をつくることもあります。



左は雪おろしに使われる道具です。スコップよりもたくさんの雪を運ぶことができるAを(10…カタカナ)といい、雪の深いところを歩くためのBを(11…ひらがな)といいます。



(9)→ 玄関前の雪囲い



また、冬は(12…日本海か太平洋で)側の地域に、雪が多く降ります。大陸からの冷たくかわいた(13…方角)の季節風が、(12…海名)を渡るときに、多くの水蒸気を含み、その雲が日本列島の山々にあたりながら高く上がって、さらに冷やされて多くの雪を降らせるのです。

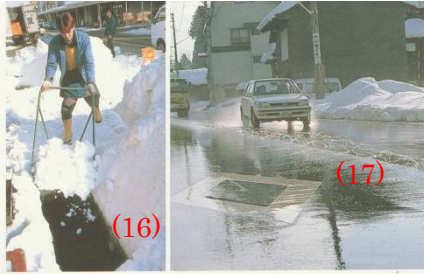
ここを流れる(14…漢字で?海流)が暖流であることも影響しています。

道路の雪をへらす

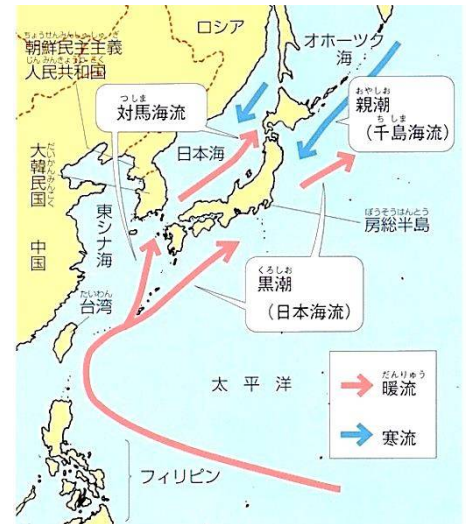


雪をかきこんでふきとばす(15…車の種類)などが、道路の除雪を行います。

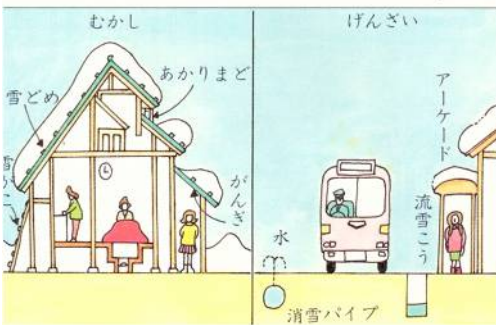
道路のわきには(16)という溝がつけられ、ここに雪を放りこんで水と一緒に流します。



地下水を利用して雪をとかす(17)も見られます。



歩道のくふう



昔は、家のひさしをのぼした(18)をつくり、人が行き来しやすいようにしました。今では、歩道の上に長い屋根をつけたアーケードがつけられています。また、ボイラーであたためた液体が流れるパイプを地下に埋めて、雪をとかすくふうも見られます。

克雪から利雪・親雪へ

十日町市は、雪にうち克つ工夫だけでなく、雪を利用し、雪に親しむことによって町を発展させようとしています。右の利雪の家では、屋根に積もった雪を貯雪そうにためておき、春になったらトイレや洗濯の水として利用し、夏は冷房用の水として使っています。



また、毎年2月の(19…左写真の祭り)には、30万人以上の観光客がおとずれていました。祭りのステージは

シートをかぶせて保存され、夏に雪中宝探しや雪上西瓜わりなどの行事に使われています。さらに、各地からスキー客がやってくるため、みやげものを店を開く農家もあります。そして、昔から雪国の湿り気と豊かな雪解け水

をいかした織物づくりもさかんです。右の(20…ひらがなで)とよばれる織物が知られています。

